『平成27年9月関東・東北豪雨』に係る
洪水被害及び復旧状況等について

平成27年12月 2日

国土交通省　関東地方整備局
河川部　河川工事課長
横坂　　利雄

国土交通省 関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure and Transport Kanto Regional Development Bureau

目　次

国土交通省 関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure and Transport Kanto Regional Development Bureau

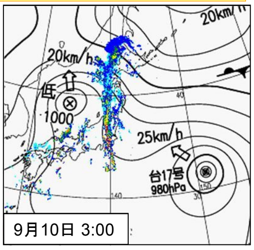
1.　降雨の概要
2.　水位の状況
3.　流量の状況
4.　鬼怒川の氾濫による被災状況
5.　鬼怒川堤防調査委員会（堤防決壊原因の特定と決壊のプロセス等）
6.　河川災害復旧事業と河川激甚災害対策特別緊急事業について
7.　決壊箇所（左岸21.0k）の応急復旧
8.　その他の被災箇所の応急対策状況
9.　鬼怒川25.35k（常総市若宮戸地先）等の被災状況の調査結果について
10.　常総市域の浸水範囲の時系列変化
11.　排水ポンプ車等による大規模な浸水の排水作業
12.　避難に係る情報提供
13.　ダムの効果
14.　避難を促す緊急行動
15.　トップセミナー等の開催
16.　洪水に対しリスクが高い区間の共同点検、住民への周知

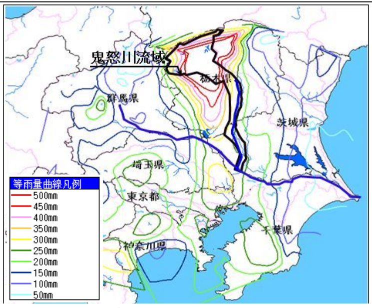
1. 降雨の概要

■ 台風18号及び台風から変わった低気圧に向かって南から湿った空気が流れ込んだ影響で、記録的な大雨となった。

■ 9月9日から9月10日にかけて、栃木県日光市五十里（いかり）観測所で、昭和50年の観測開始以来、最多の24時間雨量551mmを記録するなど、各観測所で観測史上最多雨量を記録した。

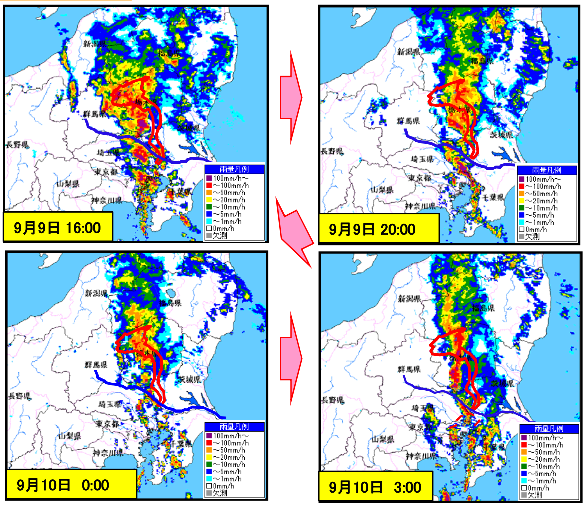
気象・降雨の概要

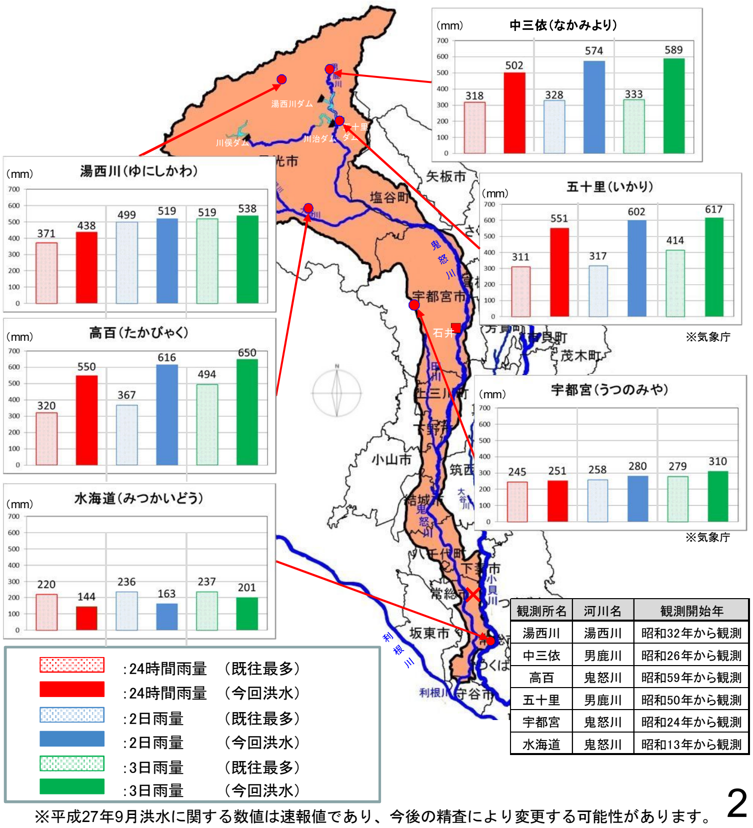




等雨量線図（8日～10日累加雨量）

レーダ雨量図





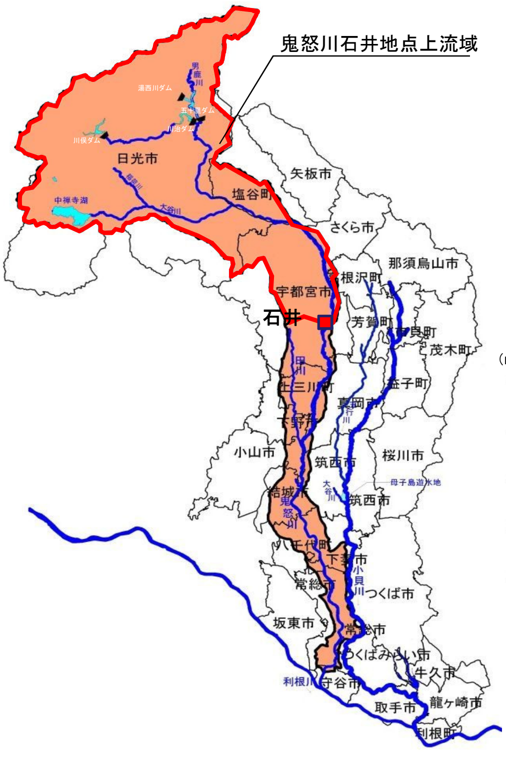
観測所名	河川名	観測開始年
湯西川	湯西川	昭和32年から観測
中三依	男鹿川	昭和26年から観測
高百	鬼怒川	昭和59年から観測
五十里	男鹿川	昭和50年から観測
宇都宮	鬼怒川	昭和24年から観測
水海道	鬼怒川	昭和13年から観測

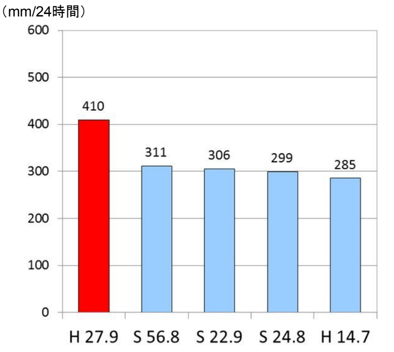
※平成27年9月洪水に関する数値は速報値であり、今後の精査により変更する可能性があります。

1. 降雨の概要（流域平均雨量の比較）

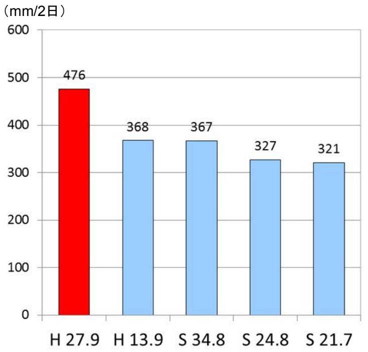
■ 9月9日から9月10日にかけて、鬼怒川石井地点上流域の流域平均最大24時間雨量410mmを記録し、これまでの最多雨量を記録した。

■ 流域平均3日雨量は、501mm（年超過確率約1/110注1）を記録し、これまでの最多雨量を記録した。

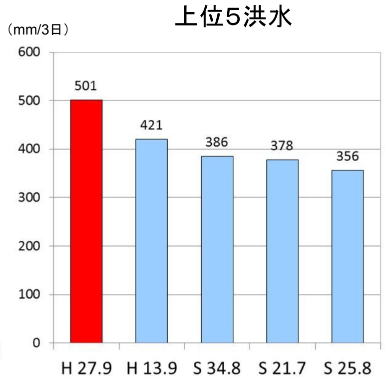




最大24時間雨量（流域平均）
上位5洪水



2日雨量（流域平均）
上位5洪水

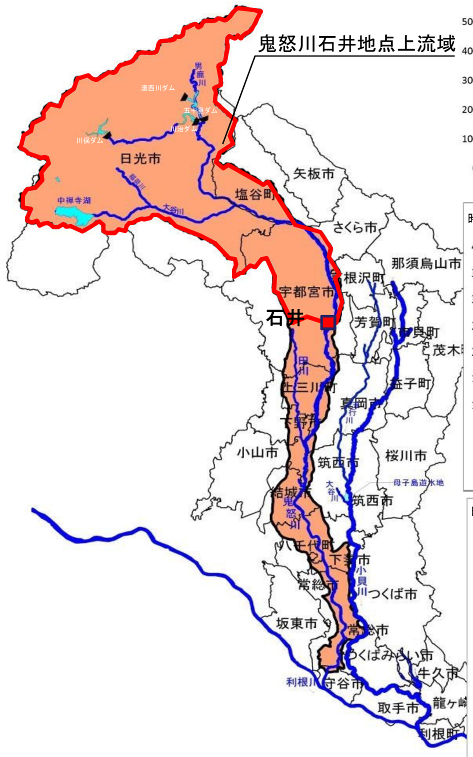


3日雨量（流域平均）
上位5洪水

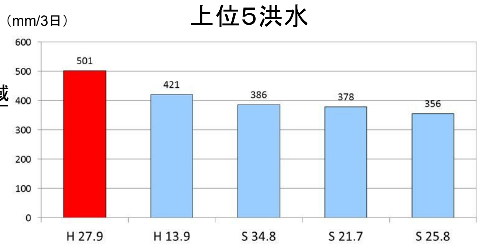
※流域平均雨量は、水海道雨量観測所が 観測を開始した昭和13年から整理。
※平成27年9月洪水に関する数値は速報値であり、今後の精査により変更する可能性があります。

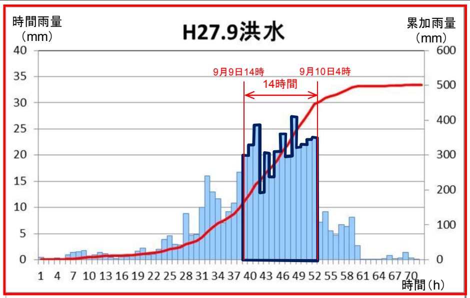
1. 降雨の概要（降雨の時間的変化の比較）

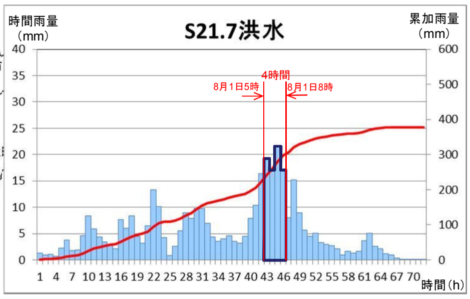
■ 鬼怒川石井地点上流域では9月9日14時から9月10日4時までの間で、流域平均時間雨量20mm前後の強い降雨が14時間にわたり降り続いた。

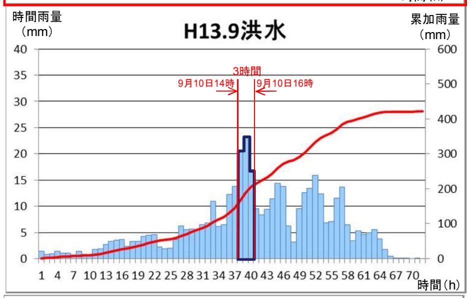


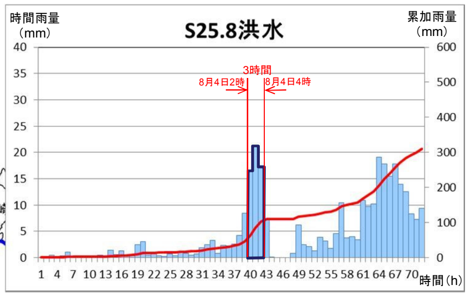
3日雨量（流域平均）
上位5洪水

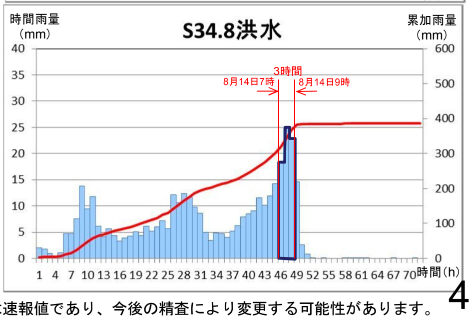








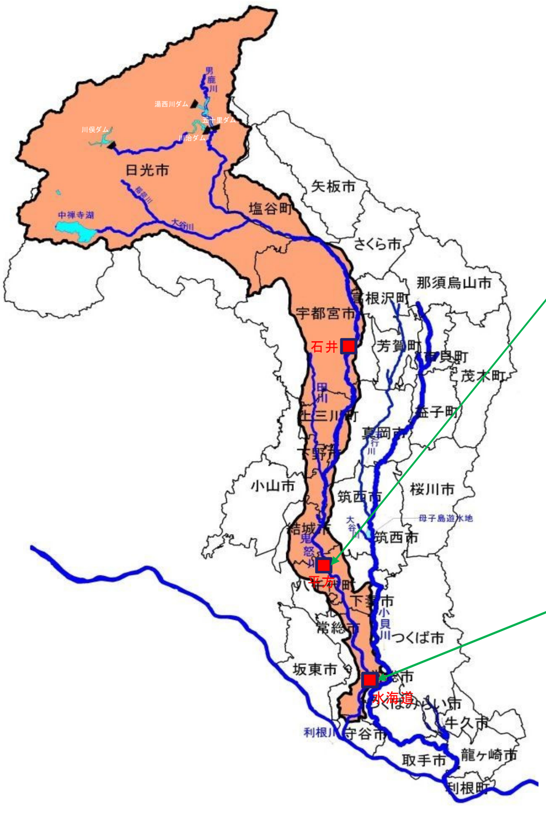




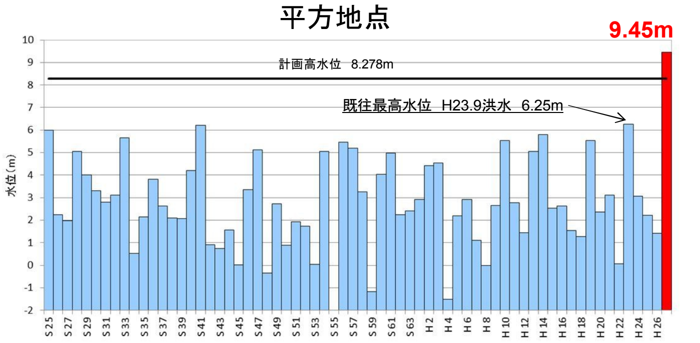
※平成27年9月洪水に関する数値は速報値であり、今後の精査により変更する可能性があります。

2. 水位の状況（各年最高水位の比較）

■ 今回の洪水は鬼怒川水海道地点及び平方地点において、観測史上最高水位を記録し、平方、鬼怒川水海道地点では計画高水位を超過した。

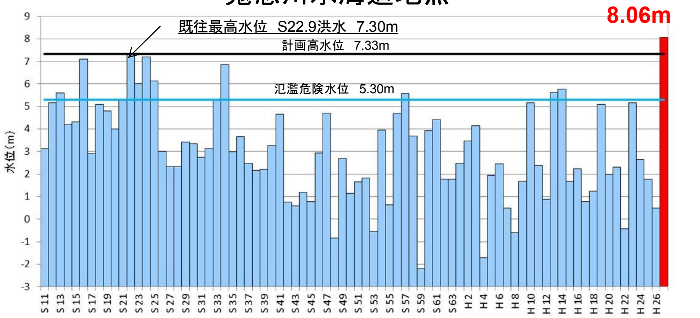


平方地点



※ゼロ点高：YP+22.044m
※昭和25年から観測開始（時刻水位）

鬼怒川水海道地点

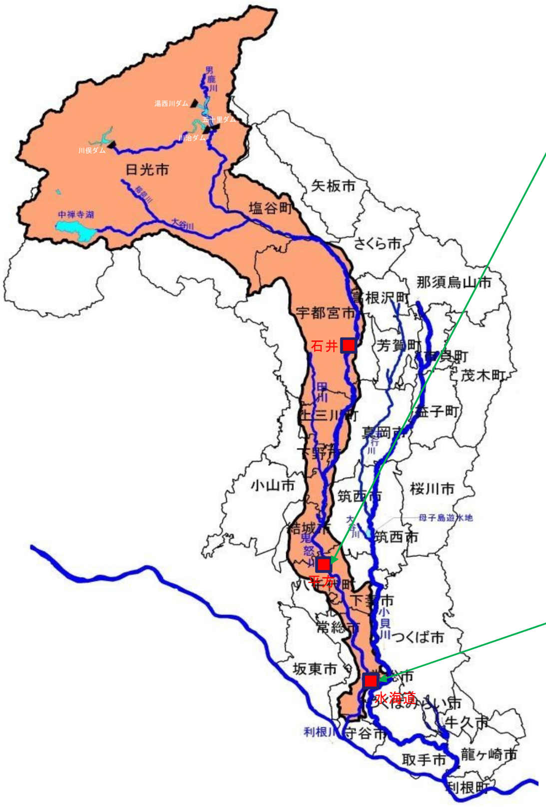


※ゼロ点高：YP+9.914m
※昭和11年から観測開始（時刻水位）

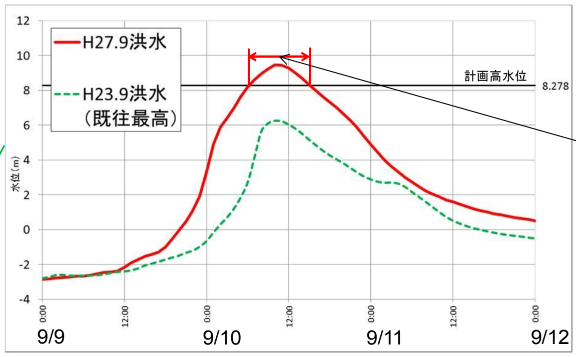
※氾濫危険水位は最新の設定水位を記載。
※平成27年9月洪水に関する数値は速報値であり、今後の精査により変更する可能性があります。

2. 水位の状況（洪水のピーク水位比較）

■ 鬼怒川水海道地点では、10日7時から11日2時までの20時間にわたり氾濫危険水位（5.3m）を超過し、さらに10日11時から16時までの5時間にわたり計画高水位（7.33m）を超過した。



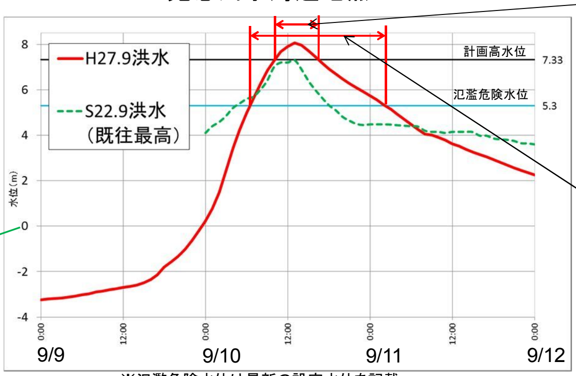
平方地点



計画高水位超過
9月10日7時～15時
（8時間）

※ゼロ点高：YP+22.044m
※昭和25年から観測開始（時刻水位）

鬼怒川水海道地点



計画高水位超過
9月10日11時～16時
（5時間）

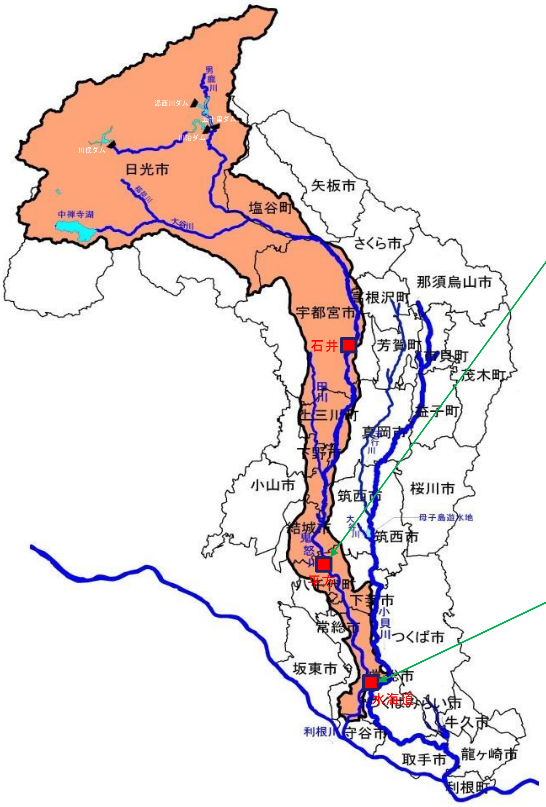
氾濫危険水位超過
9月10日7時～9月11日2時
（19時間）

※ゼロ点高：YP+9.914m
※昭和11年から観測開始（時刻水位）

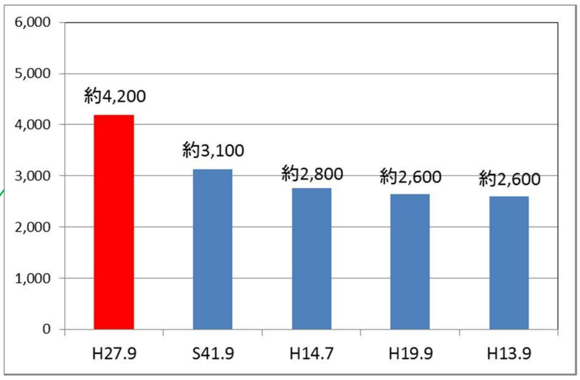
※氾濫危険水位は最新の設定水位を記載。
※横軸の時刻は今回出水の時刻を表示。
※平成27年9月洪水に関する数値は速報値であり、今後の精査により変更する可能性があります。

3. 流量の状況

■ 今回の洪水では、鬼怒川水海道地点において約4,000m³/s、平方地点約4,200m³/sを観測し、観測史上最大流量を記録した。



平方地点（上位5洪水）　※昭和25年から観測開始（時刻水位）



鬼怒川水海道地点（上位5洪水）※昭和11年から観測開始（時刻水位）

※既往洪水流量の出典：水文水質データベース、流量観測表、流量月表
※記載の流量は、ダムによる調節や、上流部の氾濫後の観測流量。
※平成27年9月洪水に関する数値は速報値であり、今後の精査により変更する可能性があります。

4. 鬼怒川氾濫による被災状況（鬼怒川の被災状況）

- 宅地及び公共施設等の浸水が概ね解消するまでに10日を要した。
- 避難の遅れ等により、多くの住民が孤立し、約4,300人が救助された。

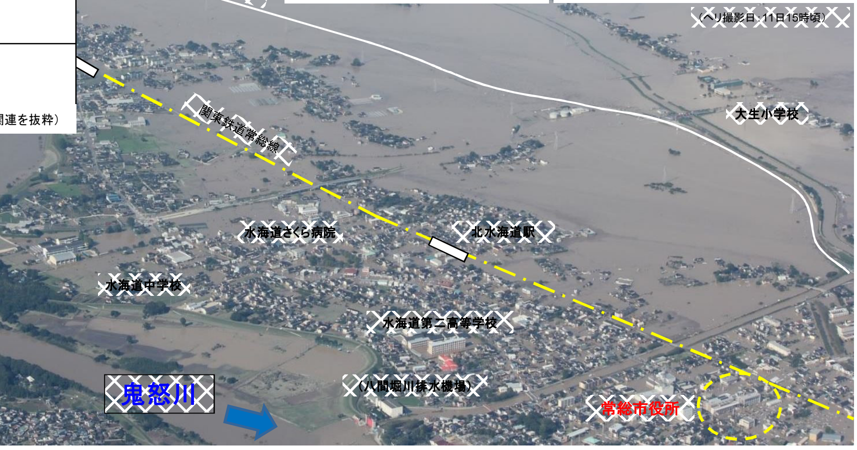
鬼怒川下流域における一般被害の状況

項目	状況等
人的被害	常総市 （死亡2名、重症2名、中等症11名、軽症17名）
住家被害	常総市 （全壊50、大規模半壊914、半壊2,773、床下浸水 2,264） 結城市 （半壊11、床上浸水38、床下浸水155） 筑西市 （大規模半壊68、半壊3、床下浸水18） 下妻市 （大規模半壊1、床上浸水58、床下浸水106） つくばみらい市 （半壊13、床上浸水1、床下浸水21）
救助者	ヘリによる救助者数　1,339人 地上部隊による救助者数 2,919人
避難指示等	①避難指示 11,230世帯，31,398人 ②避難勧告　990世帯，　2,775人 （※9月29日16時現在）
避難所開設等	避難者数 1,786人 （市内避難所 840人，市外 946人） （※9月18日11時現在）

（茨城県災害対策本部　10月22日16時以前の発表資料より常総市等、関連を抜粋）

屋根からヘリコプターで救助される人
毎日新聞社

常総市役所から駐車場を撮影（撮影日：9/11）
周辺は浸水し、防災拠点の市役所も孤立化。



自衛隊員にボートで救出された人たち
毎日新聞社

4. 鬼怒川の氾濫による被災状況（流下能力を上回る洪水による被災）

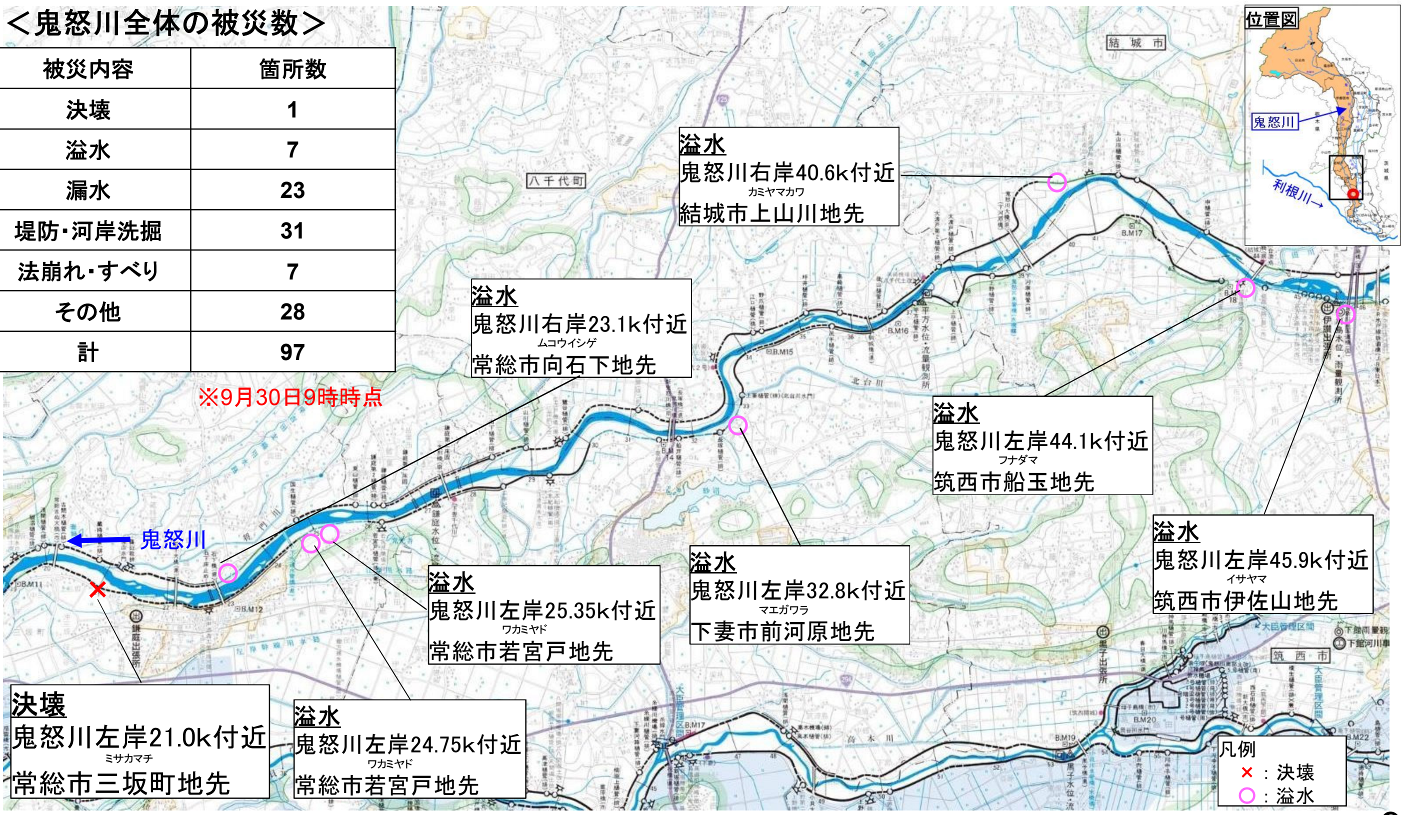
国土交通省 関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure and Transport Kanto Regional Development Bureau

- 流下能力を上回る洪水となり、7ヵ所で溢水し、常総市三坂町地先で堤防が決壊（9月10日12:50）。
  ※関東地方の国管理河川の決壊は、昭和61年の利根川水系小貝川以来、29年ぶり

＜鬼怒川全体の被災数＞

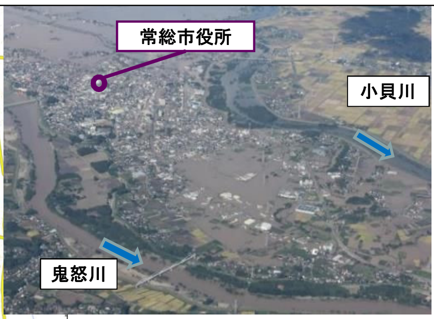
被災内容	箇所数
決壊	1
溢水	7
漏水	23
堤防・河岸洗掘	31
法崩れ・すべり	7
その他	28
計	97

※9月30日9時時点



4. 鬼怒川の氾濫による被災状況（鬼怒川の氾濫による浸水状況）

■ 常総市三坂町地先（鬼怒川左岸21.0km付近）における堤防決壊等に伴う氾濫により、常総市の約1/3の面積に相当する約40k㎡が浸水し、常総市役所も孤立した。



常総市役所から撮影（撮影日：9/11）

【決壊地点近傍】家屋等の流出状況（撮影日：9/11）

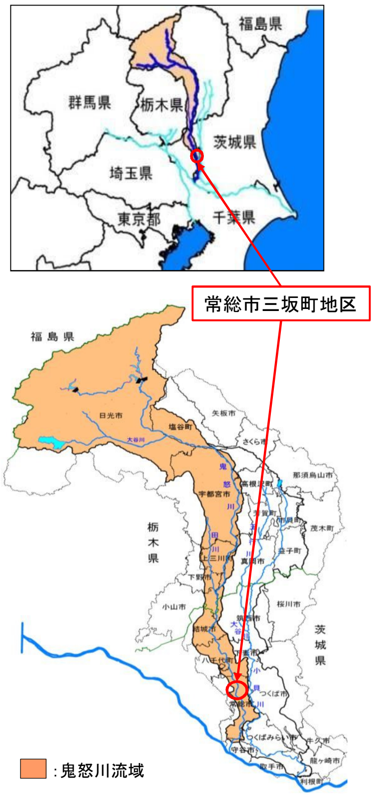
：氾濫域の最大総浸水面積（40k㎡）
国土地理院公表資料

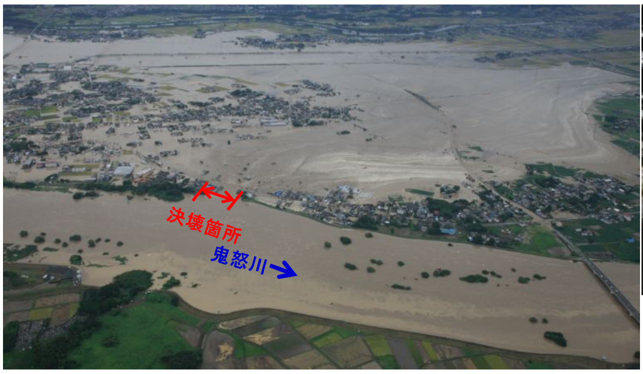
：決壊箇所
鬼怒川左岸21.0km

：浸水範囲内の建築物

4. 鬼怒川の氾濫による被災状況（堤防決壊箇所の状況）

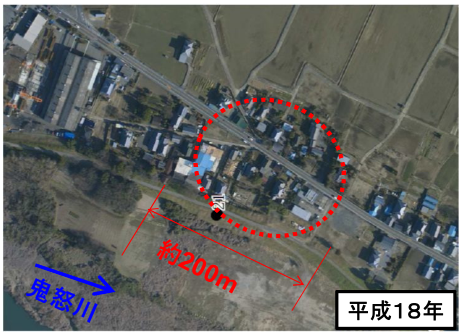
■ 9月10日12時50分に常総市三坂町地先（左岸21k付近）で、堤防が約200m決壊。
■ 決壊箇所周辺では、氾濫流により多くの家屋が流出。





被災状況（全景写真）

被災状況（拡大写真）



■平成27年9月10日 12時50分 堤防決壊
■決壊幅　約200m

5. 鬼怒川堤防調査委員会（鬼怒川堤防調査委員会の設置）

■ 鬼怒川決壊を受け、専門家から構成される鬼怒川堤防調査委員会を設置。
■ 10月19日までに、決壊原因を特定し、決壊した堤防の本格的な復旧工法について結論を得た。

委員会の目的

・鬼怒川の堤防決壊の原因の特定
・堤防復旧工法の検討

開催経緯

9月10日　鬼怒川決壊
9月13日　現地調査
9月28日　第1回堤防調査委員会
　・出水及び被災概要
　・堤防決壊の原因の検証
10月　5日　第2回堤防調査委員会
　・堤防決壊の原因の特定
10月19日　第3回堤防調査委員会
　・決壊した堤防の本格的な復旧工法の決定
　・今後の全川的な漏水調査の方向性の決定

現地調査

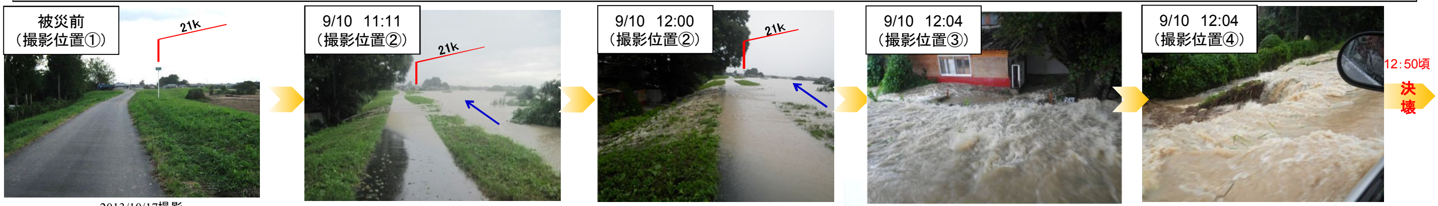
委員会の状況

委員構成（８名）

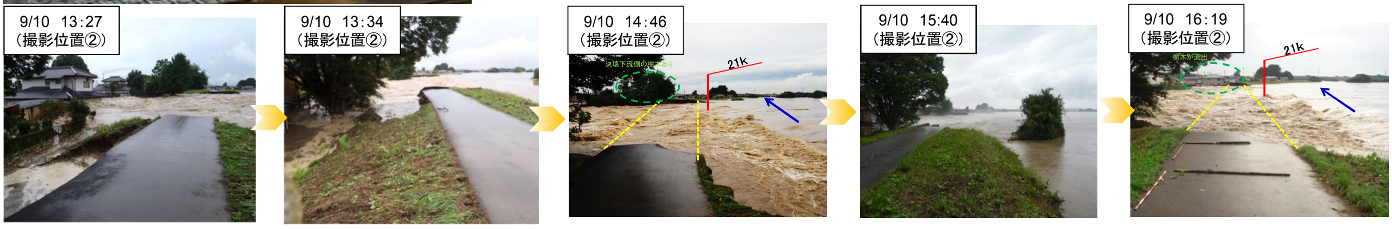
池田　裕一	宇都宮大学　大学院 工学研究科 地球環境デザイン学専攻　教授
佐々木　哲也	国立研究開発法人　土木研究所 地質・地盤研究グループ 土質・振動チーム　上席研究員
清水　義彦	群馬大学　大学院 理工学府　教授
関根　正人	早稲田大学　理工学術院 創造理工学部 社会環境工学科　教授
高橋　章浩	東京工業大学　大学院 理工学研究科 土木工学専攻　教授
東畑　郁生	公益社団法人　地盤工学会　会長
服部　敦	国土交通省　国土技術政策総合研究所 河川研究部　河川研究室　室長
安田　進 （委員長）	東京電機大学　理工学部 建築・都市環境学系 研究推進社会連携センター長　教授

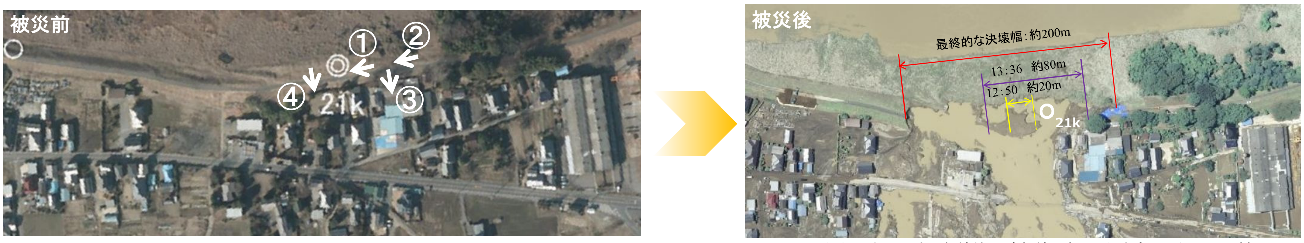
5. 鬼怒川堤防調査委員会（堤防決壊状況写真）

■鬼怒川左岸21k付近で、9月10日11時頃に越水を確認、12時頃に居住地側の堤防法尻付近で洗掘を確認、12時50分頃決壊し、最終的に決壊幅は約200mに達した。



2013/10/17撮影





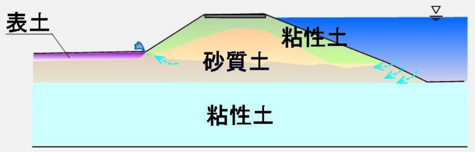
※今次出水に関する数値等は速報値であり、今後変更となることがある。

5. 鬼怒川堤防調査委員会（堤防決壊原因の特定と決壊のプロセス）

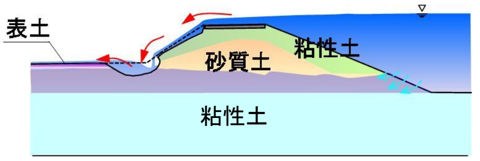
【決壊の主な要因】
　堤防を「越水」した洪水により、堤体が削り取られたこと
【決壊を助長した可能性のある要因】
　堤防下部の砂質土に「浸透」した水により発生するパイピング

堤防決壊のプロセス（推定）

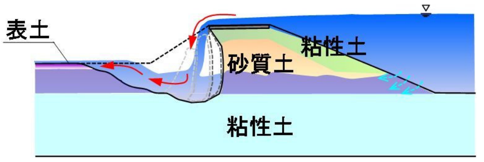
1．越水開始前段階
・河川水位が上昇
（・漏水発生の可能性）



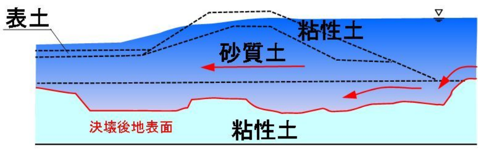
2．川裏法尻洗掘段階
・川裏法面の洗掘
・法尻の洗掘



3．川裏法面洗掘段階
・洗掘が進行
・小規模な崩壊が継続



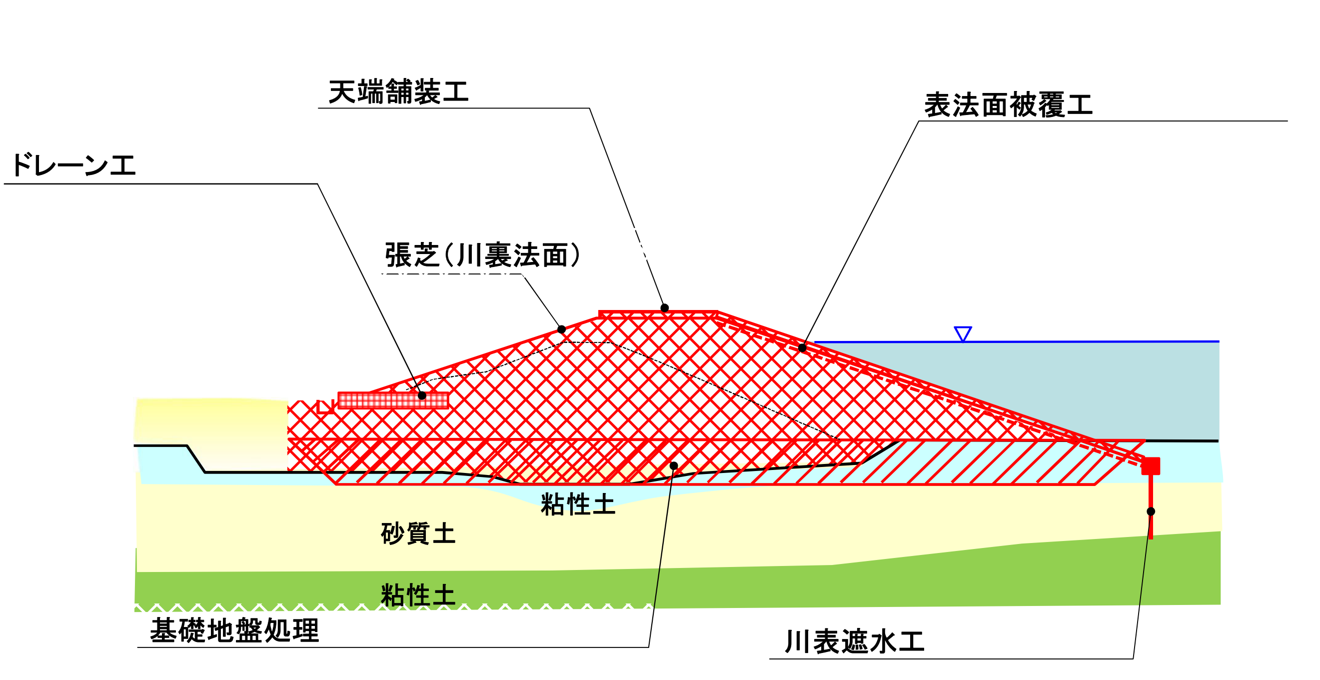
4．堤体流失
基礎地盤洗掘段階
・堤体が流失し、決壊
・基礎地盤の洗掘



5. 鬼怒川堤防調査委員会（決壊した堤防（左岸21.0k付近）の本格的な復旧工法）

■良質土等を用い、計画堤防までの築堤（嵩上げ・拡幅）を実施する。
■浸透対策として、表法面被覆工（天端舗装工を含む）、川表遮水工、ドレーン工を実施する。
■不等沈下等を抑制するため基礎地盤処理を行う。

【横断模式図】　　　　※いずれも一般的な工法である。



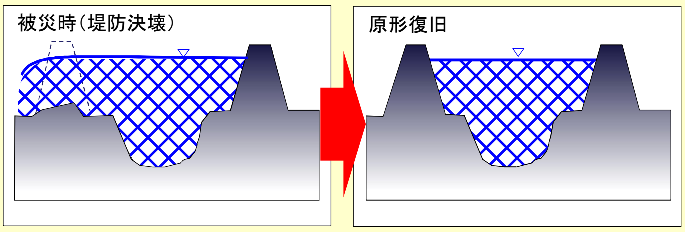
6. 河川災害復旧事業と河川激甚災害対策特別緊急事業について

河川災害復旧事業

◆事業制度の概要等

暴風、洪水、高潮、地震その他異常な天然現象により生ずる災害によって必要を生じた事業であり、災害にかかった施設を原形に復旧することを原則とする。

・異常な天然現象により、箇所毎に発生した災害を復旧する事業
河川災害の発生の原因となる洪水については以下に該当するもの
1. 氾濫警注意水位以上の出水
（支川等で氾濫注意水位の定めの無い河川にあっては、河岸高の5割程度の水位をもって氾濫注意水位とみなす。）
2. 氾濫注意水位未満の水位であっても、水防団待機水位以上の継続時間が48時間以上の出水
【公共土木施設災害復旧事業国庫負担法　昭和26年法律第97号】

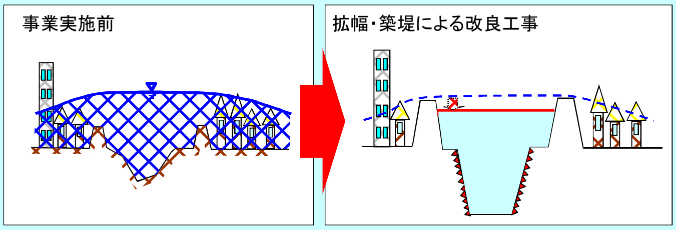


河川激甚災害対策特別緊急事業

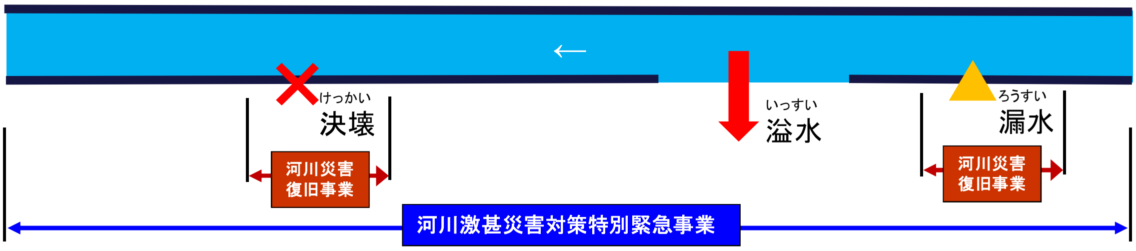
◆事業制度の概要等

河川激甚災害対策特別緊急事業は、洪水、高潮等により激甚な被害が発生した河川について、概ね5年間を目途に改良事業を実施することにより、再度災害の防止を図るものである。

・概ね5年間で緊急的に改修工事を実施。
・全体事業費は10億円以上、かつ、一般被害総額に相当する額を上限。
以下のいずれかの項目に該当するもの
1. 流出または全壊家屋数50戸（25戸）以上、
2. または浸水家屋数が2,000戸（1,000戸）以上
※（　）書きは高齢世帯の率が全国平均の概ね2倍以上である場合
【昭和51年度創設】



河川災害復旧事業と河川激甚災害対策特別緊急事業のイメージ

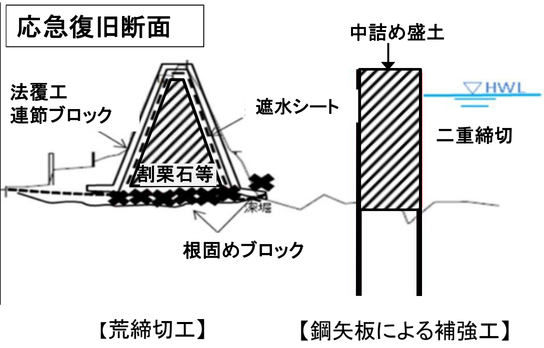


7. 決壊箇所（左岸21.0k付近）の応急復旧

■ 堤防決壊の当日（9月10日）から応急復旧に着手。24時間体制で施工し、1週間（16日）で仮堤防（盛土）を完成、２週間（24日）で応急復旧を終了。

◆ 応急復旧工事の経緯（10日12:50頃 堤防決壊）

10日　22:00頃　仮設工着手（退避場・作業ヤード造成）
11日　22:20頃　根固めブロック設置開始
16日　 5:00頃　仮堤防（盛土）完成
19日　23:00頃　護岸による補強工事が終了（荒締切工終了）
24日　20:45頃　鋼矢板による補強工事が終了
（応急復旧終了）

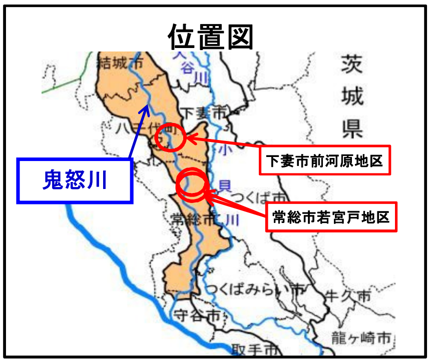


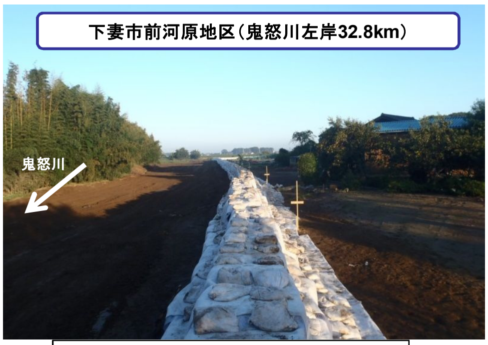
応急復旧状況（9/12）

応急復旧状況（9/24）

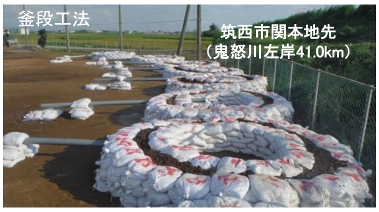
8. その他の被災箇所の応急対策状況

■ その他の被災箇所（堤防洗掘・法崩れ等）においても、応急対策が終了。（9月25日7時15分）

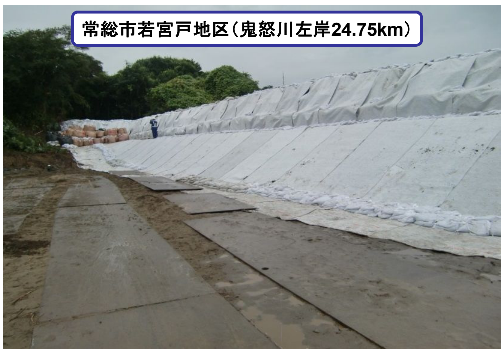




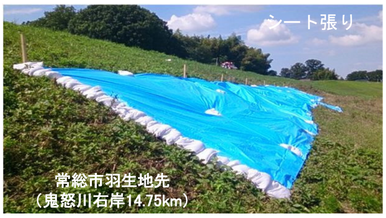
9月23日　大型土のう設置終了　(L=340m)



9月16日　大型土のう設置終了　(L=209m)

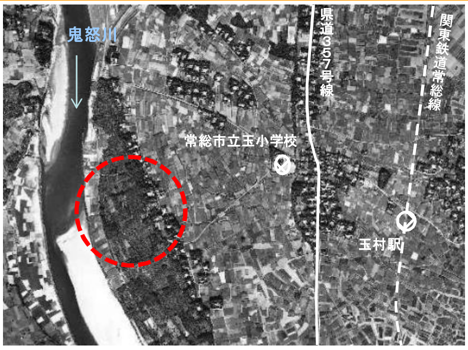


9月25日　大型土のう設置終了　(L=117.5m)



9. 鬼怒川25.35k（常総市若宮戸地先）等の被災状況の調査結果について①

■ 当該地には、常総市若宮戸地先の鬼怒川沿いにある、実態的には堤防のような役割を果たしていた地形（以下「いわゆる自然堤防」という。）が形成されていた。
■ 昭和20年代は鬼怒川と市街地の間に広く分布していたものの、昭和55年頃までに大きく減少している。
■ 平成以降は大きな変化は見られない。



1947/10/26　昭和22年

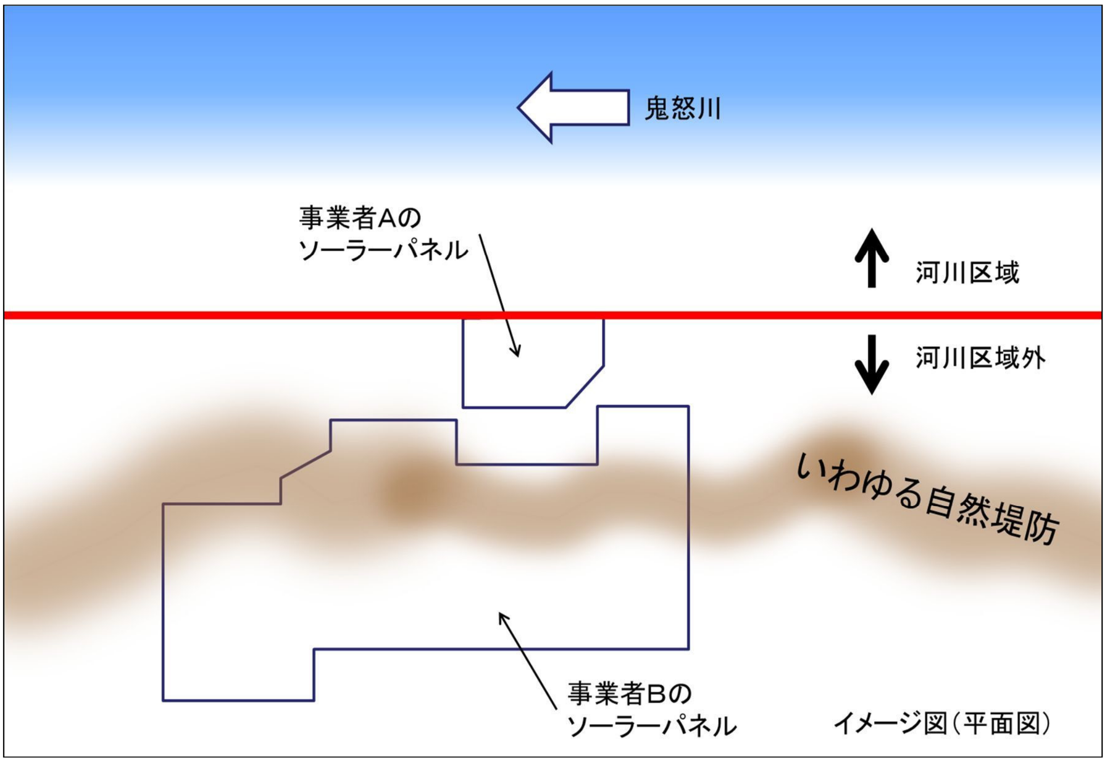
1980/10/02　昭和55年

1990/10/01　平成2年

2013/1/15　平成25年

9. 鬼怒川25.35k（常総市若宮戸地先）等の被災状況の調査結果について②

- ■ 鬼怒川は、昭和40年3月に栃木県、茨城県の管理から国の管理になった。
- ■ 当該地区の河川区域の指定は、昭和41年12月に告示し、これ以降変更は行っていない。
- ■ ソーラーパネルは、いずれも河川区域外の民有地に設置されている。

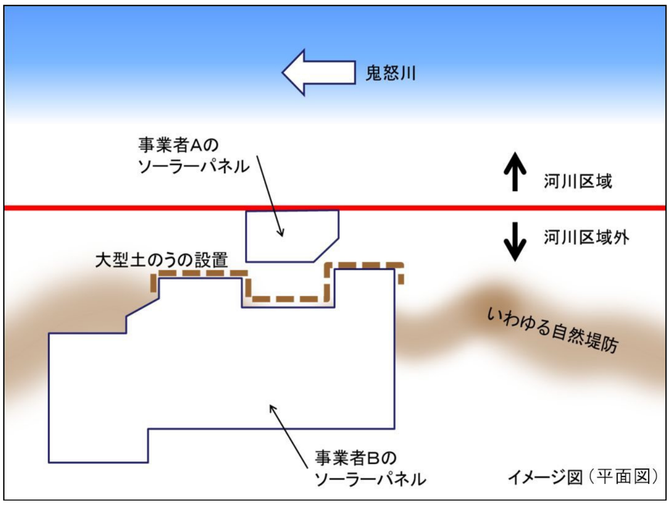


9. 鬼怒川25.35k（常総市若宮戸地先）等の被災状況の調査結果について③

国土交通省 関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure and Transport Kanto Regional Development Bureau

- ■事業者Ｂがソーラーパネルの設置工事のため、いわゆる自然堤防の掘削に着手
- ■地区住民・常総市は、浸水被害への懸念から工事を中止させるよう下館河川事務所に要望
- ■下館河川事務所は、常総市と連携して事業者Ｂにいわゆる自然堤防を現地盤の高さで残すことができないか強く申し入れるが、合意にいたらず。
- ■これを受け、下館河川事務所は、緊急的な措置として土地を借りて大型土のうを設置

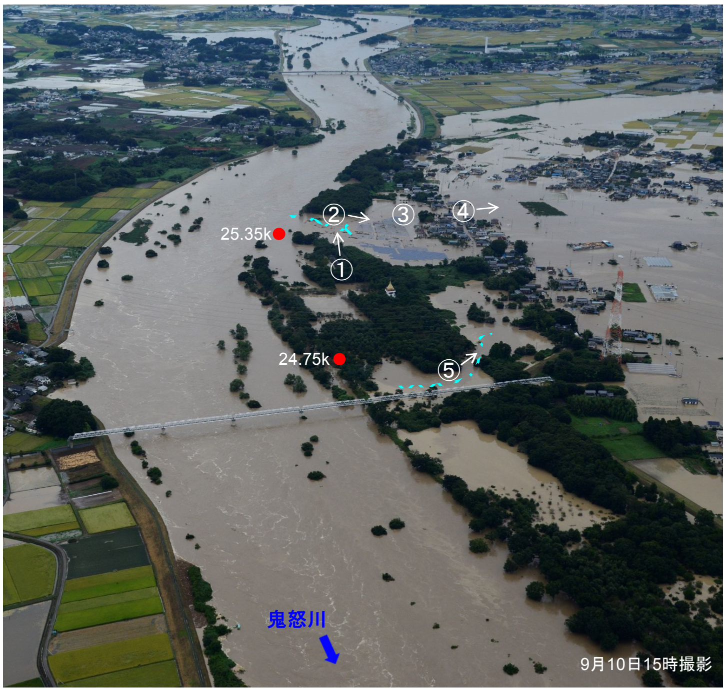
日付	主な経緯
H26.3.12	地区住民から、「通称十一面山でソーラーパネルの基礎工事で掘削している。この行為は堤防を切っていることと同じ。国土交通省で止めるよう動いて欲しい。」との要望。 河川管理者は河川区域内の行為しか制限できない旨回答。
H26.3.19	地区住民から「堤防の代わりになっていた砂をとってしまうと、堤防が無くなるのと同じ。規制できないなら国土交通省で、堤防を造って欲しい。」との電話。
H26.3.28	地区住民からの要望を受けた常総市の職員が鎌庭出張所に来所。「出水時に心配なのでなんとかしてほしい」と要望。 河川区域外のため法的指導はできないが、出水時の対応については検討する旨回答。 （この間、常総市と本件の対応を協議） ・河川法以外の関係法令等で市が対応できることは無いか ・洪水対応のためできることはないか ・対応は、下館河川事務所と常総市が連携を図りながら行う
H26.4.10	下館河川事務所と常総市で事業者Bに面会し「地盤高を下げると洪水時に浸水する恐れがあるので、現地盤の高さで残すことが出来ないか」と強く申し入れるも合意にいたらず。
H26.5.1	事業者Bの敷地内への大型土のう設置の可否を打診、ソーラーパネルの前面への設置について了承を得る。
H26.7.3	大型土のう設置完了



※本資料は一部聞き取り結果も含まれているため、
今後の調査の進展により変更することがあります。

9. 鬼怒川25.35k（常総市若宮戸地先）等の被災状況の調査結果について④

- ■ 若宮戸地先では、9月10日6時過ぎに溢水を確認（写真①）
- ■ 若宮戸地先の下流部(24.75k)からも溢水。いわゆる自然堤防※1が失われ、深掘れ（6m程度）が発生（写真⑤）



①溢水箇所（25.35k付近）溢水状況

②溢水箇所（25.35k付近）被災状況

③住宅地側の痕跡水位の状況

④水田の被災状況

⑤溢水箇所（24.75k付近）排水前

⑤溢水箇所（24.75k付近）排水後

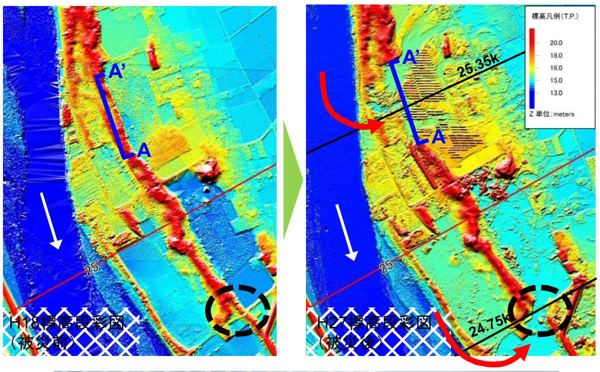
※1　洪水時に河川が運搬した粗粒～細粒の物質が流路外側に堆積したもので、低地との比高が0.5～1m程度以上のもの
（出典：治水地形分類図　地形分類項目、http://www1.gsi.go.jp/geowww/lcmfc/lcleg.html）

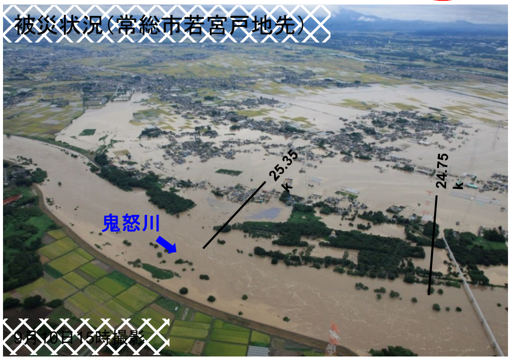
9. 鬼怒川25.35k（常総市若宮戸地先）等の被災状況の調査結果について⑤

■掘削前後の地盤高と大型土のうの設置高は以下のとおりと推定
- ・掘削前の地盤高の一番低い箇所は、過去の実測データによると概ねY.P.※1+21.36m程度
- ・大型土のうの設置高の平均値はY.P.+21.3m程度
- ・大型土のうの設置高の平均値から推定した掘削後の地盤高はY.P.+19.7m程度

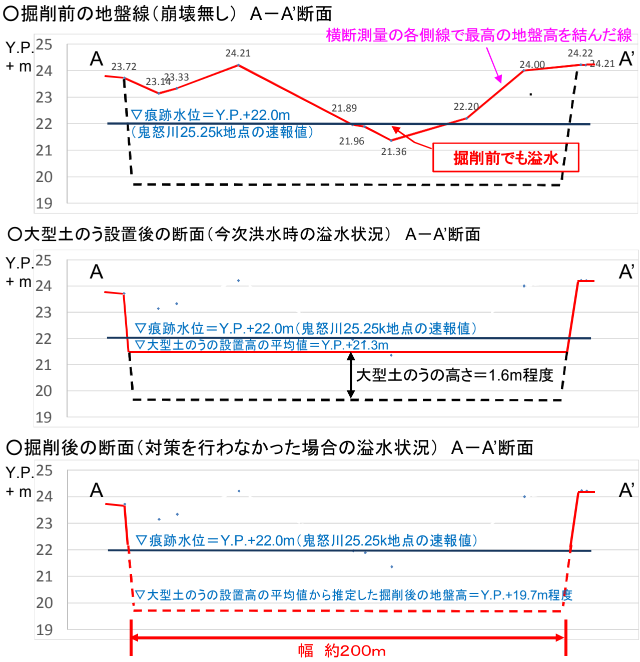
※1　Y.P.とは、Yedogawa Peilの略で、江戸川・利根川・那珂川などの水位を測る時の基準となる江戸川堀江の水面の高さ。
※2　鬼怒川水海道水位観測所は、昭和6年の観測開始以来、既往最高水位（8.06m）を記録（計画高水位を70cm超過）。

■観測史上最高の水位※2の出水により、若宮戸地先でY.P.+22.0mの水位を記録。水位と地盤高、大型土のう設置高の関係は以下のとおりと推定
- ・掘削前において、いわゆる自然堤防から溢水し、地盤高の一番低い箇所を約70cm超過
- ・大型土のうの設置高の平均値を約70cm超過
- ・大型土のうの設置高の平均値から推定した掘削後の地盤高の平均値を約2.3m超過





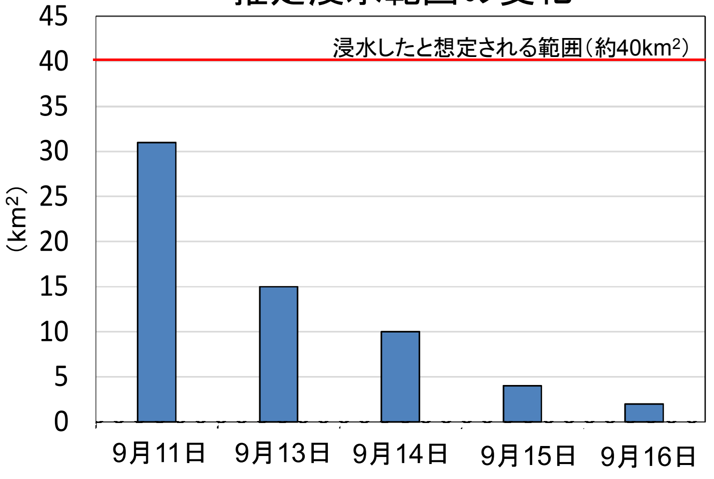
洪水時の溢水状況　比較（イメージ）



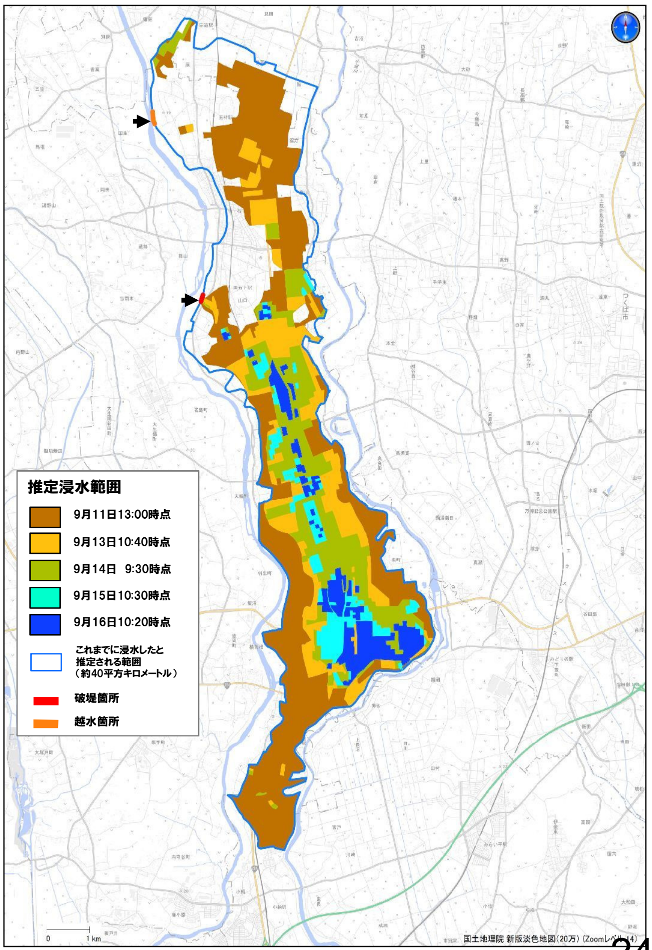
10. 常総市域の浸水範囲の時系列変化

- 鬼怒川の堤防が決壊した9月10日から排水ポンプ車による排水を行い、約40km²の浸水区域は16日10時20分には約2km²に縮小した。
- 9月19日までの10日間で宅地及び公共施設の浸水が概ね解消した。

推定浸水範囲の変化



（国土地理院公表のデータに基づく作成）

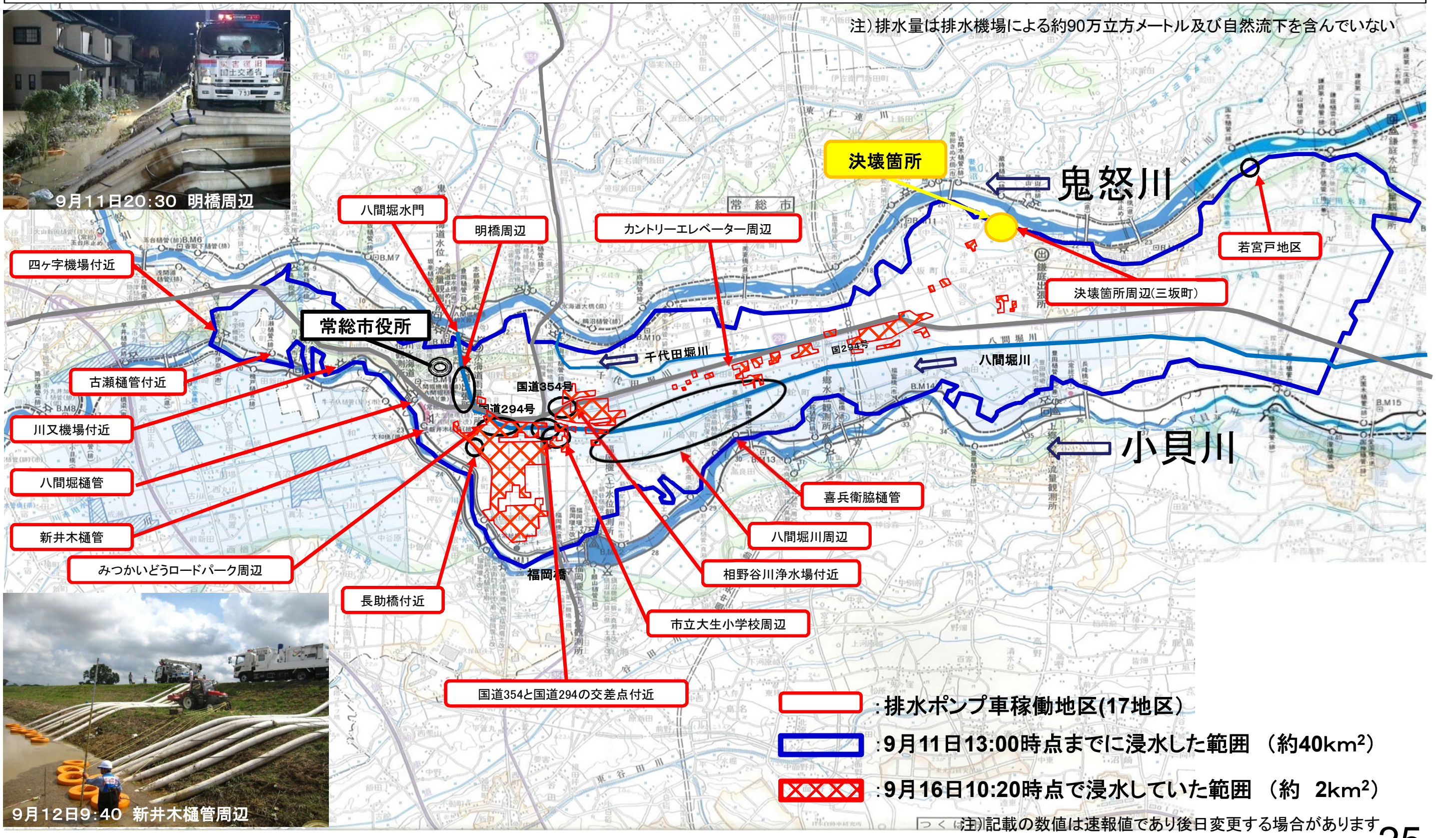


（国土地理院提供）

11. 排水ポンプ車等による大規模な浸水の排水作業①

TEC-FORCE活動

- 堤防決壊の当日（9月10日）から排水開始。全国の地方整備局の応援により、日最大51台のポンプ車を投入。約780万m³（東京ドーム約6杯分）を排水。
- 10日間（9月19日）で宅地及び公共施設等の浸水が概ね解消。



11. 排水ポンプ車等による大規模な浸水の排水作業②

TEC-FORCE活動

9月11日5時時点（決壊から16時間後）

9月12日5時時点（決壊から40時間後）

- ■ 常総市役所、相野谷（あいのや）浄水場といった公共施設及び、主要道路である国道294号、国道354号の浸水を早期に解消。
- ■ 排水ポンプ車による排水作業をもって、浸水域の自衛隊等の行方不明者捜索活動の支援を実施。

相野谷（あいのや）浄水場

9月14日13：00

9月19日　6：30

市立大生（おおの）小学校周辺

9月16日12：00

9月19日　7：00

行方不明者捜索支援

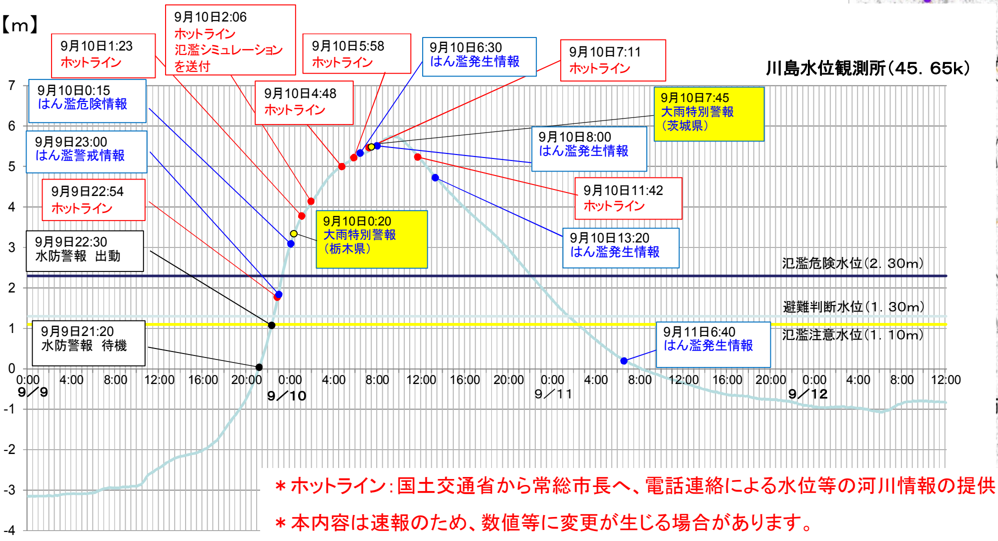
9月16日18：30

9月16日22：00

12. 避難に係る情報提供

■ 堤防決壊前の9月9日22時54分から、事務所長は常総市長に複数回電話連絡（ホットライン）。河川の水位、堤防決壊の危険性、堤防が決壊した場合にどの程度の時間でどこまで浸水するのか、などの情報を提供。

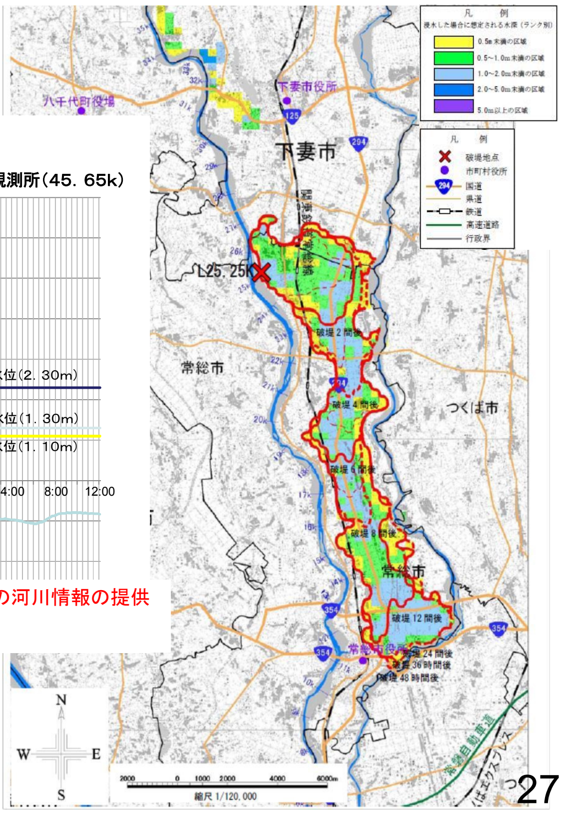
情報提供の状況



＊ホットライン：国土交通省から常総市長へ、電話連絡による水位等の河川情報の提供

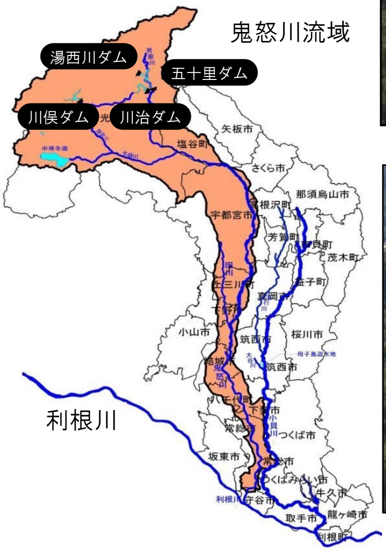
＊本内容は速報のため、数値等に変更が生じる場合があります。

氾濫シミュレーション



13. ダムの効果（上流4ダムの貯水状況）

■ 国土交通省管理の鬼怒川上流の4つのダムでは、雨や下流の河川水位の状況を見ながら、できる限り洪水を貯める操作を行い、約1億m^3の洪水を貯め込んだ。



※各ダムの写真は、ダム上流側から 9月11日に撮影

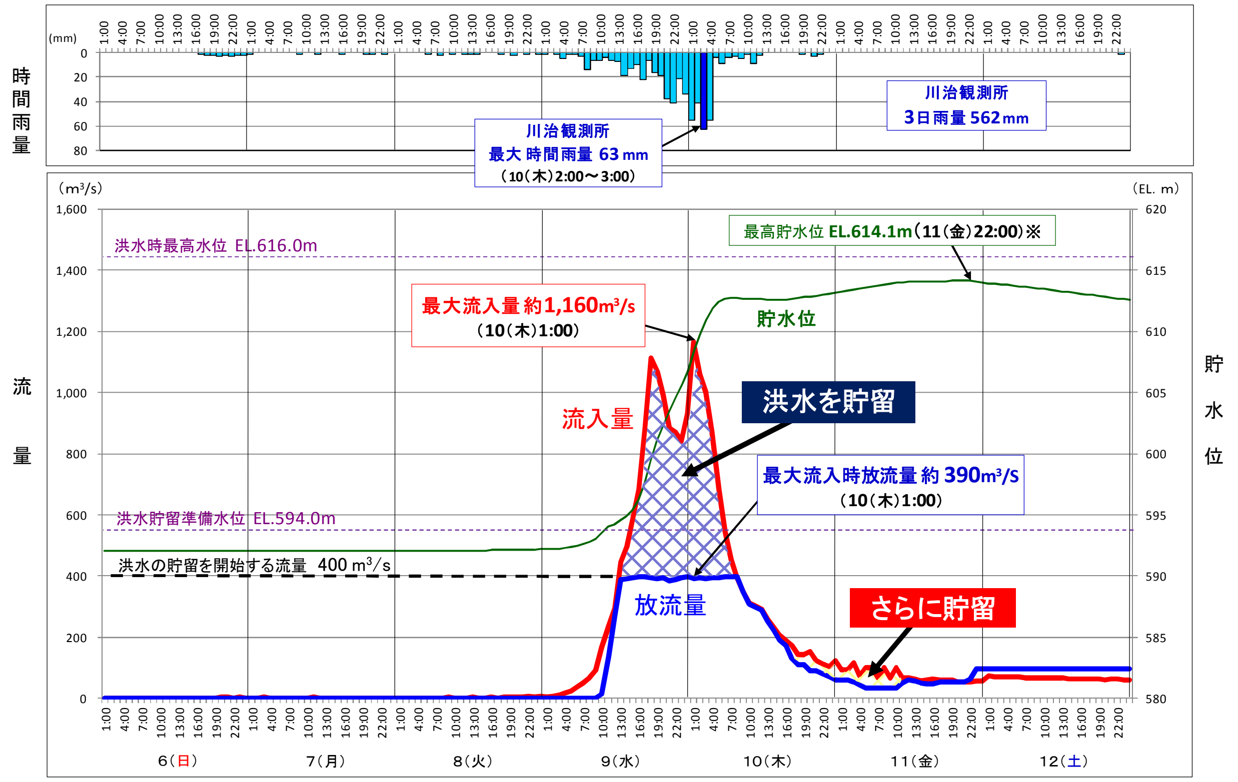
13. ダムの効果（川治ダムの貯水状況）

国土交通省 関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure and Transport Kanto Regional Development Bureau

■ 川治ダムへの流入量は最大約1,160m^3/sに達したが、そのうち約7割(約770m^3/s)を貯留し、下流への放流量を約3割(約390m^3/s)に抑えた。その後、ダムの貯留状況やダム周辺の降雨状況を見ながら、下流河川の水位低下を図るため、ダムに最大限貯留した。

川治ダム

平成27年9月関東・東北豪雨 **川治ダム** 洪水調節図

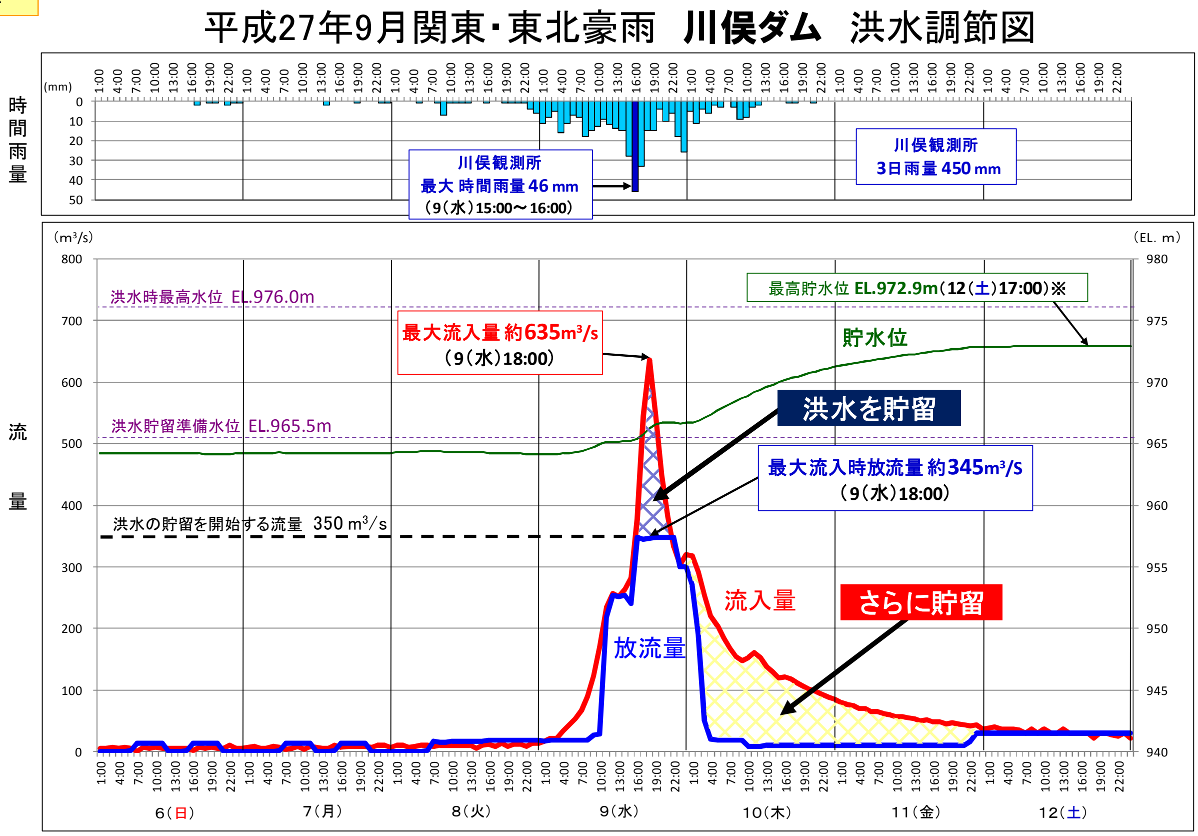


※記載の数値は速報値であり、後日変更する場合があります。
※最高貯水位は、1cm単位を四捨五入しています。

13. ダムの効果(川俣ダムの貯水状況)

■ 川俣ダムへの流入量は最大約635m³/sに達したが、そのうち約5割(約290m³/s)を貯留し、下流への放流量を約5割(約345m³/s)に抑えた。その後、ダムの貯留状況やダム周辺の降雨状況を見ながら、下流河川の水位低下を図るため、ダムに最大限貯留した。

川俣ダム



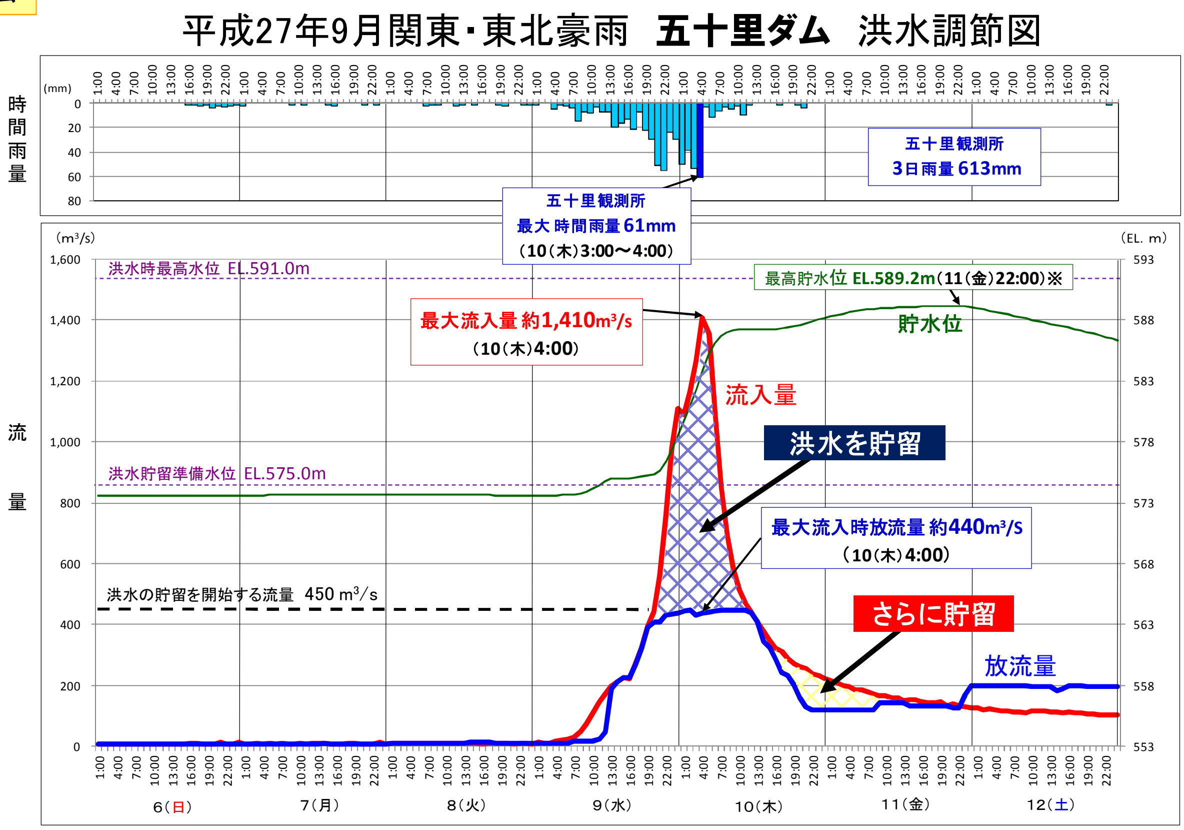
※記載の数値は速報値であり、後日変更する場合があります。 ※最高貯水位は、1cm単位を四捨五入しています。

13. ダムの効果(五十里ダムの貯水状況)

国土交通省 関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure and Transport Kanto Regional Development Bureau

■ 五十里ダムへの流入量は最大約1,410m³/sに達したが、そのうち約7割(約970m³/s)を貯留し、下流への放流量を約3割(約440m³/s)に抑えた。その後、ダムの貯留状況やダム周辺の降雨状況を見ながら、下流河川の水位低下を図るため、ダムに最大限貯留した。

五十里ダム



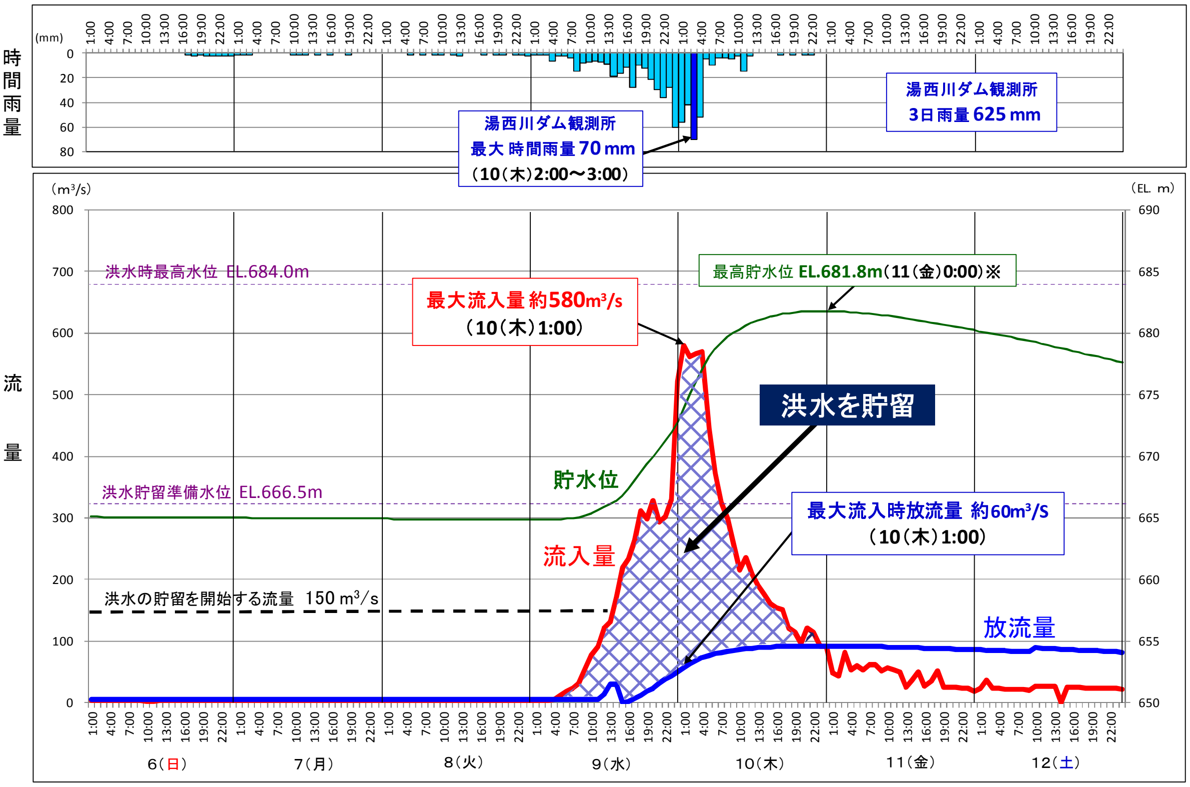
※記載の数値は速報値であり、後日変更する場合があります。 ※最高貯水位は、1cm単位を四捨五入しています。

13. ダムの効果（湯西川ダムの貯水状況）

■　湯西川ダムへの流入量は最大約580m³/sに達したが、そのうち約9割（約520m³/s）を貯留し、下流への放流量を約1割（約60m³/s）に抑えた。

湯西川ダム

平成27年9月関東・東北豪雨　湯西川ダム　洪水調節図

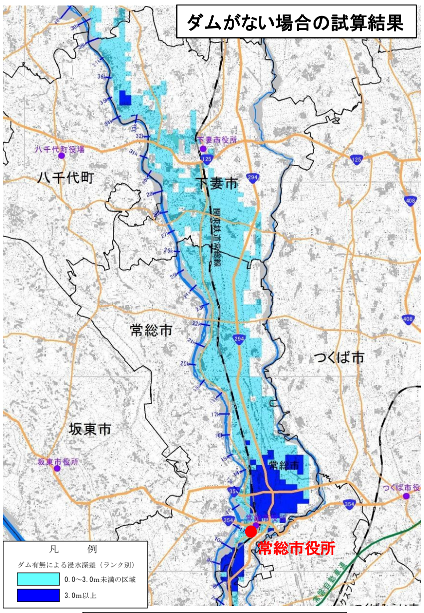


※記載の数値は速報値であり、後日変更する場合があります。　※最高貯水位は、1cm単位を四捨五入しています。

国土交通省 関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure and Transport Kanto Regional Development Bureau

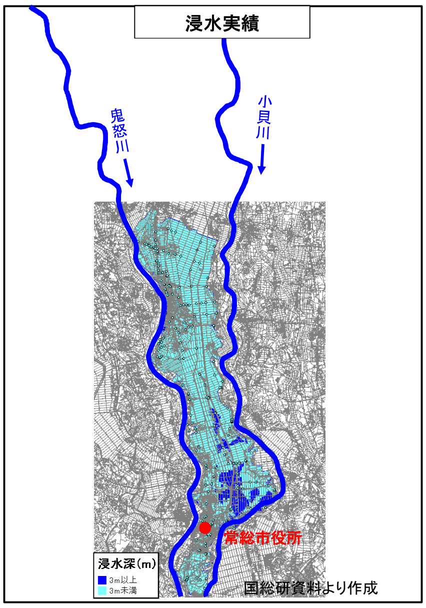
13. ダムの効果（ダムの有無による試算結果）

■　４つのダムによって、鬼怒川下流（平方～水海道）の水位を２５～５６ｃｍ低下させるとともに、鬼怒川下流左岸の氾濫水量を概ね２／３、浸水深３ｍ以上の浸水面積を概ね１／３、浸水戸数を概ね１／２に減少させた。



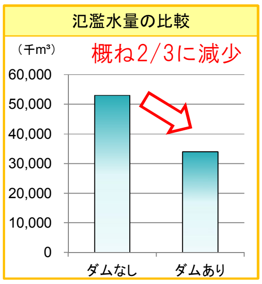
ダムがない場合の試算結果	
浸　水　面　積	約60　km²
氾　濫　水　量	約5,300　万m³
浸　水　戸　数	約18,000　戸
浸水深3m以上の浸水面積	約8.5　km²

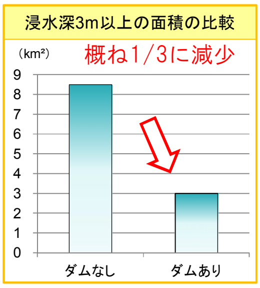
※上記の数値は、全川の効果のうち、鬼怒川左岸を対象として表示



浸水実績	
浸　水　面　積	約40　km²
氾 濫 水 量※注	約3,400　万m³
浸　水　戸　数	約9,300　戸
浸水深3m以上の浸水面積	約3.0　km²

※地盤高は国土地理院が公表している基盤地図情報のデータを使用
※地盤高、及び国交省が実施した浸水痕跡調査（約300箇所）の 結果を基に浸水位・浸水深を推定
※数値は常総市域を対象
※浸水戸数は国土交通省による調査結果である。
※注：計算により再現





ダムの効果による各地点の水位低下量

（cm）

	効果
平方水位観測所	約56
決壊箇所（21.0k）	約25
鬼怒川水海道水位観測所	約25

※シミュレーション結果に基づくものです。
※数値は速報値であり、今後の精査により変更する可能性があります。
※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。

14. 避難を促す緊急行動

どこで豪雨災害が発生してもおかしくないとの認識のもと、以下の緊急行動を実施中

《平成27年10月5日記者発表》

1. 首長を支援する緊急行動

～市町村長が避難の時期・区域を適切に判断するための支援～

【できるだけ早期に実施】

- トップセミナー等の開催
- 水害対応チェックリストの作成、周知
- 洪水に対しリスクが高い区間の共同点検、住民への周知

【直ちに着手し、来年の出水期までに実施】

- 氾濫シミュレーションの公表
- 避難のためのタイムラインの整備
- 洪水予報文、伝達手法の改善
- 市町村へのリアルタイム情報の充実

2. 地域住民を支援する緊急行動

～地域住民が自らリスクを察知し主体的に避難するための支援～

【できるだけ早期に実施】

- 洪水に対しリスクが高い区間の共同点検、住民への周知（再掲）
- ハザードマップポータルサイトの周知と活用促進

【直ちに着手し、来年の出水期までに実施】

- 家屋倒壊危険区域の公表
- 氾濫シミュレーションの公表（再掲）
- 地域住民の所在地に応じたリアルタイム情報の充実

15. トップセミナー等の開催

洪水予報やホットラインなど、出水時に河川管理者から提供される情報とその対応等について確認するため、浸水想定区域内の首長に対してトップセミナーを実施中。

笛吹市
（富士川水系 笛吹川）

甲府河川国道事務所長から、倉嶋市長を始め笛吹市幹部に対して
トップセミナーを開催 （平成27年10月16日）

16. 洪水に対しリスクが高い区間の共同点検、住民への周知

■流下能力が低い区間、過去に漏水があった箇所など洪水リスクが高い箇所について、河川事務所、地方公共団体、自治会等で共同点検を実施中。
■ＨＰや広報等を通じて住民にも分かり易く周知し、理解を促進。

多摩川共同点検

京浜河川事務所

日　時：平成27年10月9日（金）　13:00～15:00
場　所：多摩川　大師河原水防センター他（川崎市）

参加者：33名

気象庁　2名	神奈川県　3名
川崎市　10名	地元住民　8名
京浜河川事務所　10名	

荒川下流共同点検

荒川下流河川事務所

日　時：平成27年10月8日（木）　10:30～12:00
場　所：荒川（戸田市早瀬地先から川岸1丁目地先）

参加者：10名

戸田市：	4名
戸田市消防本部	2名
荒川下流河川事務所	4名